

ハナモモ “菊桃”

(バラ科)

花卉が細長くキクに似ていることから名づけられました。濃い紅色の八重咲きで、モモとは思えない花を付けています。

2019年4月20日

通巻第411号

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (4/6~5/6)

おし花美術作品展

◇展示温室 (4/20~4/23)

エビネ展

◇屋外展示場 (4/20~4/25)

春の山野草展

ミツガシワ (ミツガシワ科)

北半球の寒冷地や高山の湿地帯に見られる多年草です。ミズバショウと同じく、氷河期の遺存種(レリック)とされています。カシワの葉が3枚集まっているように見えることから、ミツガシワ(三柏)。

オーリニア・サクサティリス

(アブラナ科)

ヨーロッパからアジアの原産で、イワナズナの和名で知られています。黄色い花が岩の間から咲きこぼれています。アリッサムに近縁ですが、宿根します。

アエオニウム

‘夕映え’

(ベンケイソウ科)

葉の縁が赤く、また新芽が黄色みを帯びて美しいので人気がある多肉植物です。白っぽい花が多数咲いています。

シャクナゲ (ツツジ科)

‘太陽’をはじめさまざまな品種が咲き始めました。遠くからでもはっきり見える存在感のある豪華な花木です。

ムベ (アケビ科)

常緑のつる植物で、内側にほんのり赤みがさすベル型の花を咲かせています。よく見ると雄花と雌花があります。同じ科のアケビと異なり、実は完熟しても割れません。

アイラトビカズラ

(マメ科)

日本では熊本県の相良と天草、長崎県の九十九島でしか確認されていない珍しいつる植物。暗紅紫色の大きな花が房咲きに咲いています。以前スイレン温室で咲いたことがあります。屋外に植栽した株が咲くのは今回が初めてです。

サクラ “御衣黄・鬱金”

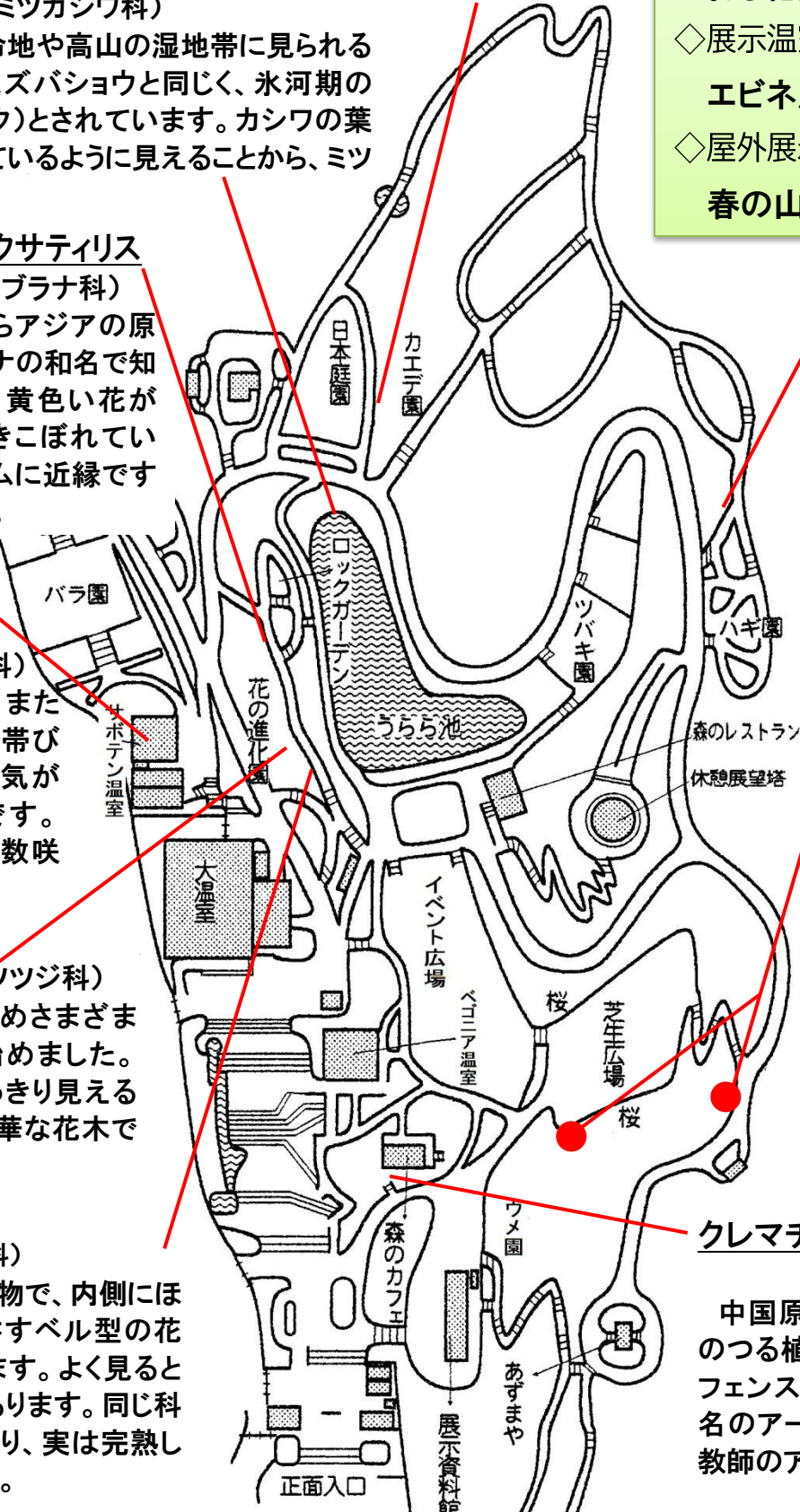
(バラ科)

ソメイヨシノが終わり、サトザクラが見ごろを迎えています。御衣黄と鬱金は花色に特徴があり、それぞれ淡緑色と黄色です。花卉の中に葉緑素(クロロフィル)を持つので、緑系の色になります。

クレマチス・アーマンディー

(キンポウゲ科)

中国原産の原種クレマチス。常緑のつる植物で、甘い芳香のある花がフェンス一面に咲いています。種小名のアーマンディーは人名(仏人宣教師のアルマン・ダビット)由来です。



♣毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します♣

♣毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します♣